

新年明けましておめでとうござ
います。

東日本大震災という未曾有の災
害に襲われ、わが国の歴史を画し
た年として記録と記憶に残される
であろう平成23年が去り、新しい
年を迎えました。

高浜虚子に私の好
きな新年の句があり
ます。

去年 今年 貫く
棒の如きもの

年末から新年を迎
えようとするとき、

頭のなかにこの句が浮かんできて、
来し方行く末をいろいろと思い起
こします。そして、今年の「貫く
棒の如きもの」に頼みたいものは
何だろうか、などと考えています。

最初にこの句を知ったときは、
正月の雰囲気に、貫く棒とは、

おどろおどろしく似つかわしくな
いだろう、と違和感を覚えたもの
でした。しかし、過去、現在、未
来という時間の悠久の流れのなか
で、年の変わり目の一瞬を捉えて、
そこに棒の如きものが横たわって
いるとの発見は、めまぐるしく変
化する激動の現代にあって、心を
落ち着けられる安心感を与えてく

貫く棒の如きもの

—大西 秀人—

れるような気がします。

それぞれの人がさまざまに思い
のなかで、変わってほしくないも
の、変えたくないものを持ってい

るはずです。新年にあたってそん
な思いを「貫く棒の如きもの」に

託してみるのもいいと思います。
その意味で、昨年から今年にか

けて「貫く棒の如きもの」に託し
たいものの一番手として挙がるの
は「絆きずな」というものではないでし
ょうか。「絆」は、平成23年の世
相を表す漢字にも選ばれました
し、新語・流行語大賞のベストテ
ンにも入りました。大震災の大き
な被害、悲しみのなかで人と人と
のつながりや地域の絆のありがた

さが、再認識さ
れ、「がんばろ
うニッポン」の
掛け声とともに、
「絆」の文

字をあしらったグッズや「絆」の
文字を掲げた新聞雑誌などがたく
さん出回っています。

さまざまに「絆」がさらに強く
なり、「貫く棒の如きもの」の先
に明るく輝かしい未来が見えてく
ることを願っています。

(高松市長)